

## 令和2年度 第2回 会津図書館協議会 議事録

日時：令和3年3月19日（金）13：30～15：00

場所：生涯学習総合センター3階 研修室5・6

出席者：委員 10名出席

事務局 6名出席（生涯学習センター所長、会津図書館長、副主幹2名、主任主査主任主事）

### 1 あいさつ

会津図書館長

会津図書館協議会委員長

### 2 議事（委員長を議長とし、進行）

#### （1）令和2年度事業実施状況（下半期）について

※事務局より報告

<質疑応答等>

委員：「調べる学習コンクール」について、一言感想を。非常に内容が濃い作品が多かったと感じた。全国コンクールに出品し、2作品も入賞したとのことだが、以前にもこうしたことはあったのか。

事務局：例年、佳作と奨励賞という形で入賞はしていたが、（奨励賞の上の）優良賞は久しぶりである。今回は応募作品は少なかったが、質としては高かったと事務局でも感じたところだ。

委員：素晴らしいことだ。このレベルを今後も維持していただきたい。

委員：「会津ビブリオバトル」についても、調べる学習コンクール同様、（新型コロナウイルス感染症の影響で）参加人数は少なかったものの、本当に質の高い大会だった。

「本の夜会」のときは、ちょうど怪談ばなしの時に地震が来て驚いたが、図書館職員が冷静に「頭を守ってください」などの指示を出したり、震源地の確認などをしていて感心した。「ブックスタート」では、感染対策で読み聞かせが行われず残念だったが、これは致し方ないと感じた。お母さんたちが家でたくさん本の読み聞かせをしてくれていることを願う。

「本の福袋」は、私が（開始から）数日後に行った時にはもうなくなっていた。毎年人気なので、来年はもっと早く行こうと思う。

委員：先程、ブックスタート事業での読み聞かせは行われなかったとのことだったが、リモートを使っての対応計画はなかったのか。

事務局：著作権の面で課題があり、実施には至らなかった。

委員：承知した。そういえば、以前、著作権の関係で（リモートでの読み聞かせを）1冊だけでやめた、という話を別のところで聞いたことがあったのを思い出した。

#### （2）令和3年度当初予算・（3）令和3年度事業実施計画（案）について

※事務局より一括説明

<質疑応答等>

委員：デジタルアーカイブ事業について、もう一度聞きたい。ネット上で見られるのは、学習面でも非常に良いと思うので。どのような資料が対象になるのか。また、関連して、予算がかなり大きいと思うが、毎年かかるものなのか。

事務局：会津藩の江戸時代後期の資料で、会津図書館で所蔵している古文書、掛け軸などの公開を予定している。参勤交代の行列図などは、小中学校の教科書やテキストなどでも扱っていたりすると思う。予算面では、今回当初予算案にあげているように、初年度は大きくかかるが、次年度からはクラウド利用料が定額での支払いとなるだけで、毎年この金額がかかるというわけではない。導入後は、インターネットでどなたでも自由に（無料で）お使いいただけるようになる。また、将来的には、文化課や観光課で持っている歴史資料と連携していけたら良いと考えている。予算については、一般財源ではなかなか難しいので、今回のように図書館振興財団の提案型助成事業に手を挙げさせていただくなどの方法を考えているところである。

委員：貴重な資料がたくさんあると思うが、すべて公開するにはかなりかかると思うが…。

事務局：郷土資料は4万点ほどあり、すべてデジタルアーカイブ化するのは難しいと思う。

### (3) 第二次会津若松市子ども読書活動推進計画 令和2年度実施報告について

※事務局より説明

#### <質疑応答等>

委員：学校図書館図書標準はどこが作成したものなのか。

事務局：文部科学省において、学級数に応じて冊数を定めている。

委員：図書標準は冊数だけを定めたものか、それとも分野ごとに定めているのか。

事務局：冊数だけを定めたものである。小学校の例では、1クラスだと2,400冊、2クラスでは3,000冊、3クラス以上は段階的に計算式が設定されている。

委員：内容の基準はなく、古くても冊数があれば良いという計算の仕方か？

事務局：図書標準では、特段内容には触れられていないが、単に数字が高ければ良いということではなく、あまりにも充足率が高いのは、適正な（図書の）更新がなされていないのではないかと疑う目安にもなっている。なお、学校図書館は、学校がメインで整備しているが、会津図書館でも巡回訪問を通して、技術的な支援や整備状況の確認をさせていただいている。

委員：今後も引き続き学校図書館の支援をしてほしい。

事務局：承知した。

委員：関連して、古い本を除籍していくと、図書標準冊数を下回ることがある。市内の中学校で、本のリサイクルボックスを設置し、「もう読まない本は寄付してください」と呼びかけをしているところがある。意外と図書が集まるので、参考までに。

委員：小さい学校では、本を購入するのは良いが、その後の処理に時間をとられ、なかなか除籍（廃棄）に手が回らない。そのあたりをもっと効率的に行うために、早く電算化（図書館システムの導入）したいが、うまくいっていないのが現状だ。

事務局：古い本を探しだすにしても、電算化されていないと、年代別に並んでいるわけではないので、なかなか大変だということは承知している。電算化していないということで、やはりどこでも悩みがある。市内では現在2～3校が自前で導入しているということだが、やはりその辺りがうまく進まないことには、というのと、先程もあったように、会津図書館奉仕員が、どこに何があるかをすぐに探せるような状況が必要だろうと考え、活動しているところだ。なお、学校図書館支援員と会津図書館奉仕員の連絡会も月に1度開催しているので、改善のヒントになるようなことがあればお伝えしていきたいと考えている。

委員：高校でも、夏休みに図書館担当職員の研修会を開催する予定である。その時に、もしよければ会津図書館の職員の方に来てもらい、いいアイデアなどをもらえるとありがたいと思っているので、その時はよろしくお願ひしたい。

### (4) 第三次会津若松市子ども読書活動推進計画について

※事務局より説明

#### <質疑応答等>

委員：保育園では、絵本の楽しさを少しでも子どもたちに伝えられるよう、毎週絵本の貸出日を設け、保護者に言葉かけをしている。保育園には0歳児もいるが、親御さんは0歳児に絵本というのはイメージがわかないようだ。「一緒に触れあって、おうちの人の声で語りかけるのがいいんだよ」と伝えている。

また、この計画を見て、（園児は）小学校、中学校、高校と続く基盤の年代なのかな、というところで、本当に本の好きな子どもたちを一人でも多く育ててあげなければいけないな、とすごく感じる。これからも絵本の好きな、根っこの部分を大事にしていきたいと思う。

委員：読み聞かせのボランティア活動に関しては、小学校によって新型コロナウイルス感染症に対する温度差を感じた。ぜひ来てください、といった所と、（読み聞かせを）中止します、という所と。あと、新型コロナウイルス感染症のことには限らないが、先生方の引継ぎというか、図書に関する考え方というか…先生方もお忙しいので、すごく難しいのだろうが、（子どもにとって）一番身近な図書館はやはり学校の図書館なので、子どもたちにたくさん利用してもらえるようになるといい、と思う。

委員：そのような啓蒙普及は、どこでしていったら、いいのか…。学校には学校の都合があるわけだし…。

委員：学校の方でも呼びかけていく。

委員：朗読サークルに関しては、いつもは体育館で、映像と音楽と朗読を行っているが、新型コロナウイルス感染症の影響で、予定していた学校の半分は行けなくなってしまった。市内のある学校では、初めて校内放送で朗読会を開催したところ、それがとてもうまくいった。校内放送でも大丈夫だという実感もあったし、子どもたちに聞いても「とても良くわかった。」とのことだった。そんなふうにならぬ意味で、それぞれに良い所があったと感じた。

議長：その他どうか。

委員：色々とお話を伺ったが、会津若松市もデジタル化、IT化が進んでいる中で、図書館でも（障がいなど支援を必要とされる方についてマルチメディアデイジー図書の導入などを）進めていくということで、素晴らしいと思う。と言いつつも、私自身がデジタル化に乗り遅れそうな人間として、さて、このままデジタル化が進んでいった場合にどうしようかな、とドキドキしながら聞いていた。

また、先程あったように、ネットのほうに載せると著作権や肖像権の問題が発生することもあるんだと、他の人が持っている権利は、公に出した瞬間に多分色々問題が出てくるのかな、などということも思った。youtu（ユーチューブ）に上げることも自体もまずいような状況で、日頃から他の業務でも意識していかなくてはならないと感じたところだ。

そこで、デジタルに追いつけない人間に対してはどうしたらいいのか。今はスマホでもデジタル書籍といったものがあるが、手に取って見せる（紙の）本というのはやはり必要なんじゃないか、と感じたところだ。

議長：ありがとうございました。他にはいかがか。

委員：「古文書講座」についてのお願いがある。古文書講座については、教えてもらうばかりで発表の場がない。出来れば、図書館で、初級の人でもこの程度は読めるのではないかという程度のものでいいので、（講座の成果品を）発行できないものか。勉強する方の役に立てれば、ということで頒布をぜひお願いしたい。古い本屋さんにも古文書はないことはないが、あっても非常に独特の崩し字で、読み取りが難しい。だから、きちんとしたものでなくてもいいので、それに似たようなものを考案していただくと助かる。

事務局：実は、デジタルアーカイブ事業の中においても、先程の崩し字というのが古文書の中にある。例えば、古文書講座の（受講生の）方々が現代の形に直したものを重ねて見せることも技術的には出来るらしい。なので、講座で崩し字を現代語に直したものを活かすような形で、古文書を読みやすくすることが出来ればいいね、などとこの話をしていたことがある。

委員：ぜひ実現を（お願いしたい）。

委員：今年はコロナでみなさん本当にご苦労があったと思う。その中でも、図書館の貸出や図書館の維持をしていただき本当にありがたい。（新型コロナウイルス感染症の影響は）しばらく続くかもしれないが、みんなで知恵を出してやっていけば、いい図書館を維持することができると思うので、事務局だけではなく、市民の私たちも色々考えながら（図書館を）利用させていただきたいと思う。あと、読書活動推進計画に関わって、子どもさんにどうやったら本を読んでもらえるのかというところがいつも議論になる。これは永遠のテーマだと思うが、J P I Cの勉強会でも話題になったことがあるので、ひとつお話ししたい。司書の免許を持っていらっしゃる方はご存知かと思うが、一般に5歳以前というのは「前読書期」という時期で、5歳から小学校1年生1学期までが「読書入門期」になる。この時期は「この字なーに？」と聞いてくる時期である。次に「初歩読書期」というのがあって、これは小学校1年生1学期末くらいから3年生頃まで。さらに「多読期」が小学校3年生末くらいから中学校1年生の末まで。それから「成熟読書期」になって、中学校1年生の末頃から高校3年生頃まで、というのが一般的な子どもさんの読書の発達だそうだ。やはり、小学校3年生頃までに「あー、この本面白いな」という本に出会えたかどうかというのが重要で、その後どんどん本を読む多読や成熟読書期になって、いろんなジャンルの本を読み漁る時期を迎えるようになる。今はおうちの方も仕事などで忙しいとは思いますが、おうちの方が、「早くご飯食べなさい、早くお風呂に入りなさい、早く寝なさい」しか話さないで終わってしまう、ということになると、言葉の種類が増えていかないということになる。なので、忙しい人ほど、寝る前の5分間、本を読んであげてほしい。そうすると、その話の中にある言葉、生活の種類以外の色々な言葉をシャワーのように浴びることで、子どもたちは言葉をたくさん覚えていく。読み聞かせだけしていても、本を一人で読むことが出来るようにはならない。その移行期に、幼年童話という、絵本ではなく、文字だけで書いてある縦書きの本がある。例えば「おさるのまい

にち」とか、「えー、なにこれ」みたいなお話で、ちょっとした簡単なおさるさんが描いてある、みたいな。絵本は言葉に対して絵の補助があるが、それがない本を読んでいくと、言葉に注目するようになる。それに、今日の資料もそうだが、今の世の中は横書き。対して、小学校の教科書は縦書きである。幼年童話の大きい字で縦書きを読むと、目がこう上下に運動するので、追視の練習にもなって、縦書きにも抵抗がなくなるそうだ。だから、司書の皆さん、カウンターにいらっしゃる皆さんから、面白い幼年童話を学校の図書館や会津図書館にもたくさんあると思うので、おすすめしていただきたいと思う。そこをぜひおすすめしていただくと、色々な本に興味をもっていくのではないかと思う。本の中で出会う言葉はたくさんあるので、色々な年代に関わる方は、ぜひぜひ頑張ってください。

委員：私のほうからも1点。障がいのある子どもを対象としたおはなし会の開催回数が0回で少し残念だった。私自身が食育関係で年に2回程、特別支援学校に行っている。食育について、絵本を使うとすごくわかりやすいようだ。すごく熱心に集中して、子どもたちが絵本を見てくれるので、ぜひこの障がいのある子どもを対象としたおはなし会の開催を実現させてほしいと思う。私が伺っているところが低学年なので余計にそうなのかもしれないが、文字でなくて絵というところが、耳から入るところがすごくいい。実は、私が伺っているのは聴覚支援学校なので、電波で発信するのだが、ちゃんと絵と音で捉えてくれるので、効果を感じつつ関わらせてもらっている。会津図書館でも、ぜひおはなし会を実現させてほしい。

### (5) その他

(本日の議題はすべて了承)

## 3 その他

## 4 閉会